



JAあそだより

平成20年1月

あけましておめでとう ございます



本所玄関前の門松



2008
新年

VOL.36

■今号16ページ主な内容

- 丸山信義組合長 新年のご挨拶
- 女性部フォーラム・ちゃぐりん感想文
- 青壮年部熊本県大会
- 小国郷、JA大山町との取引好調！

● JA 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111 / FAX 0967-23-1088

組合員の負託に応えるべく 農家経営安定に努める年に



阿蘇農業協同組合
代表理事組合長
丸山 信義

新年、明けましておめでとうございます。

平成20年の年始にあたり、旧年中に組合員皆様から賜りました、ご支援、ご協力に対し厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、戦後農政の大転換となる「品目横断的経営安定対策」が平成19年4月から本格的にスタートし、新たな一步を踏み出す年となりました。JA阿蘇管内でも担い手54戸・集落営農組織66組織が発足致したところですが、今後もJAとして最大限の支援を行って参りたいと存じます。

基幹作物である水稲につきましては、6月上旬の低温と7月上旬からの長雨による日照不足等で、作況指数96と5年続きの不作となりました。価格についても、全国的に過剰基調で推移し卸売業者の買い控えが生じ、先行き不透明感で低価格で推移致しました。このため政府は、政府米34万トン・飼料用原料に10万トンの買付による米価下落対策を講じ、持ち直しの感ができております。

青果物につきましては、販売高は前年対比105%と推移致しましたが、燃料・生産資材の高騰により困窮農家を取り巻く環境は益々厳しさが予想される中、更なるコスト削減が喫緊の課題だと思っております。

一方では、JA阿蘇として念願の斎場が一の宮中央支所に隣接して完成し、昨年11月から本格的に稼動しております。組合員・地域住民の為の斎場として、斎場葬・自宅葬と大小さまざまな葬儀に対応すべくスタッフ一同真心こめて対処して参りますので、ご用命賜りますようよろしくお願い申し上げます。

農業を取り巻く環境は、農畜産物の価格の低迷・原油高による生産コストの増大により厳しい状況が続いておりますが、「安全・安心」な農畜産物提供へ向け更なる努力をして参ります。特に本年度は、「JA活動総合3カ年計画」の実践のため部会の統合・出荷資材の統一等組織整備を図りながら、組合員の負託に応えるべく農家経営安定に努めて参りますので、組合員皆様の尚一層のご指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様方にとって最良の年となりますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



JA阿蘇女性部フォーラム

表彰式・講演・学習会など
多彩なプログラムを実施



オープンセレモニーの大正琴

第5回JA阿蘇女性部フォーラムが11月6日、女性部員やJA関係者など約200人が参加して国立阿蘇青少年交流の家で開かれました。開会に先立ち「の宮支部・小国郷支部の大正琴や銭太鼓による「夕やけこやけ」など、懐かしい童謡7曲が披露されました。

続いて9月に行われた女性部主催の家庭菜園コンクール表彰式があり、最優秀賞の後藤フク子さん（高森支部）、優秀賞の古木トシ子さん（



家庭菜園コンクールの表彰式



主催者挨拶の菅部長(右)と来賓挨拶の丸山組合長

の宮支部)・小島たち子さん(阿蘇町支部)・矢野フミさん(小国郷支部)・藤本梅子さん(西原支部)一人一人に菅美佐子女性部長から表彰状と記念品が贈られました。

開会式では、菅部長が主催者挨拶を行い、来賓挨拶では丸山信義組合長をはじめ各来賓からこれまで女性部が取り組んできた活動に称賛とエールが送られました。その後、恒例の「ちやぐりん感想文」の表彰と発表に移り、高森東小学校4年の本田美三弥君が「お米一つぶ」、白水小学校4年の田上亮早君が「田んぼの自由研究を」を説んで、そして阿蘇市中通小学校4年の佐藤水梨さんが「ちやぐりんを読んで」というタイトルでそれぞれ感想文を発表

家庭菜園コンクール 最優秀賞に後藤フク子さん(高森)



会場につめかけた女性部の皆さん

表、会場内から大きな拍手が起きました。「実践活動報告」では高森支部の住吉りえ子さんが「高森支部活動報告と私の家族」を発表し、南部営農センターの井芹太二職員が家庭で行っている「ライフプラン実践報告」を発表しました。

午後からは、講演と学習会が行われ、営農生活センターの麻生せい子課長が「守りたい・伝えたい・大切なこと」と題し、ユーモアを交えながら講演。また、同センター副調査役の桑嶋誠さんが「JA女性組織の活性化・女性参画について」と題した学習会を行いました。

最後に参加者全員で新JA女性の歌を合唱し無事に終了しました。



会場に展示された絵手紙や手芸



実践報告を行う住吉りえ子さん



ちやぐりん感想文発表の様子



講演を行う麻生せい子さん



実践報告を行う井芹太二職員

J A阿蘇葬祭 「一の宮斎場」落成



完成した「一の宮斎場」の外観

J A阿蘇は10月19日、一の宮斎場の落成式を行い、J A役員や近隣J A組合長、経済連、建設業者ら約100人が出席しました。神事では、丸山信義組合長や中尾雄二経済連専務が玉串をささげ、斎場の完成を祝いました。

丸山組合長は挨拶で「この斎場を含め自宅葬と全3会場での葬儀が可能となった。おとぎのおにぎりなどは地産地消で行い、今後、



斎場の無事完成を祝う神事

一点の汚点もないようにやっていく。サービスにサービスを掲げ、地域に密着した安心できる斎場にする」と決意を述べました。

斎場は延べ面積465平方メートルで、最大100人を収容可能なホールをはじめ、法室兼通夜室を設けています。これまで通りの献茶サービスや会場葬での価格帯など、サービス内容はより充実させ、家族葬や密葬などのニーズにあつた対応を10名のスタッフがしています。

総事業費は約1億円で、10月24日より会場葬を受け付けており、11月1日より自宅葬も受け付けています。J A阿蘇はこれまで(株)エーコーブ「J A葬祭くまもと」と

の提携による葬祭事業を行っていましたが、組合員の生活環境並びにニーズの変化により、約3年間の検討・会議、視察を繰り返し、念願であつた葬祭事業をJ A阿蘇独自で行うことに決定した次第です。

J A阿蘇、市民生活に奇与 金沢中央卸売市場より感謝状

J A阿蘇は11月5日、石川県金沢市中央卸売市場より優良出荷者の表彰を受け、戸藤信夫市場長から丸山信義組合長に表彰状と記念品が贈られました。この表彰は同卸売市場へ継続的かつ多量に青果物を出荷し、市場の発展と市民生活に寄与していることが評価されたものです。戸藤市場長は「今後とも安心・安全な青果の供給を期待しています」と語っていました。J A阿蘇は94年より取引を始め、年間、イチゴを50万パック同市場へ出荷しています。



表彰を受けた丸山組合長（中央）と戸藤市場長（右）、後藤J A阿蘇常務

青壮年部熊本県大会

J A阿蘇代表が各部門で大活躍

盟友の主張……岡田孝七さん
組織活動実績……本田寛雄さん
青年の歌……荒牧光博さん

平成19年度J A熊本県青壮年部大会が10月31日・11月1日、熊本市で開催されました。J A阿蘇からは盟友の主張に「輝く未来へ」と題し岡田孝七さん（一の宮支部）、組織活動実績発表大会に「子供たちのパワーで明るい農業」と題し本田寛雄さん（高森支部）がそれぞれ出場しました。また青年の歌「君とこコンテスト」では、荒牧光博さん（高森支部）が素晴らしい歌声を披露しました。

農業フェア（11月10・11日）の看板コンクールでは、一般米場者の投票により一の宮支部の作品が最優秀賞を獲得し、平成20年2月に行われるJ A全国青年大会に出展することになりました。（次ページに続く）



全国大会に出展される一の宮支部の作品

青壮年部県大会で活躍した JA阿蘇代表の皆さん



「青年の歌」の荒牧さん



「親友の主張」の渡田孝七さん



「組織活動実感発表」の本田さん

組織活動実績発表(要旨) 「子供たちのパワーで 明るい農業」

JA阿蘇青壮年部高森支部 本田 寛雄

【地域の概要】

私たちのJA阿蘇は、北部は大分県、南部は宮崎県に接する熊本県でも北東に位置するJAです。JA阿蘇は3つの地域に分かれ、高冷地野菜、酪農が盛んな北部の小国郷、阿蘇のカルデラに広がる水田地帯と広大な草原がある阿蘇中部、最も阿蘇らしい素朴な風景が残る南阿蘇とに分かれ、多彩な農産物が四季折々に生産されています。その中で私たちが住む高森町は南阿蘇で奥座敷と呼ばれ、標高500m〜800mの波状急傾斜状の特徴的な地形をなし、年間平均気温13℃、年間降水量が2000mmと多く、この豊かな湧水と美しい空気、そして、肥沃な大地を活かし農業をしています。

【組織の概要】

現在、JA阿蘇青壮年部の盟友数は340名で、本部を中心に阿蘇郡市7支部で活動しています。わが高森町青壮年部は盟友数34名と少ない人数と中山間地域という立地条件、経営形態もさまざまな中、積極的に事業を展開しています。

【事業内容】

▼地元の祭り、イベントの参加

高森町では7月7日の七夕にあわせて、「高森町湧水トンネル七夕祭り」が開催されます。そこで、抽選で地元の野菜をプレゼントするための野菜の提供、また「やまめのつみとり大会」でやまめを塩焼きにして食べて

もらっています。

▼野菜、米の販売

高森町で1月に「スマイルフエスタ」というイベントが開催されます。阿蘇で11月といえば、ほとんどの野菜が終わりを迎えているころですが、野菜を何品かと新米の宣伝と販売を行っています。

▼各種研修会

毎年の研修会で肥料・農薬の研修をしています。昨年は肥料工場に行き、堆肥の投入量と土壌の性質について学んできました。

▼新規事業の導入

日本農業は農産物の価格低迷、輸入農産物の増加、原油高騰による農業資材の値上がりなど、今後の農業を考えると暗い話がたくさん浮かんできます。そのような中、今までの青壮年部活動は農政活動や農業技術に関する活動が多かったが、子供たちや親に對して食と農の大切さを伝える活動をしてみないかと、そうすると、JAも「食農教育」を進めていこうと考えていて、「アグリキッズスクール」にまるとあそびスクールを計画・検討しておられました。そこで、JAに協力をお願いし計画を進めることとしました。しかし、人数が集まらないのです。部活などで参加者が少ない状況でした。このままでは、当初考えていた子どもたちへの食と農の大切さを伝えることが出来なくなる。再度、教育委員会や小学校に出向き、「アグリキッズスクール」の意味と大切さの理解を促し、最終的には39名の参加者が集まりました。

そして、青壮年部が担う役割は各回の事前準備と子どもたちに農業の仕方を教える

こととなりました。そこで、各回の活動を簡単に紹介します。

- 第1回目 開校式(5月27日)
- 第2回目 キャンプ(7月15、16日)
- 第3回目 子牛市場見学(8月25日)
- 第4回目 収穫祭(10月14日)
- 第5回目 開校式(12月10日)

このように、順調にアグリキッズスクールを開校式まで迎えられました。その際にはJA阿蘇女性部の大きな力がありました。児童を預けておられた保護者の皆さんからも大変感謝されました。

今回のアグリキッズスクールを通じて、子どもたちに解りやすく、農業という仕事を伝えることの難しさ、食の大切さを伝えることの難しさを身を持って痛感しました。この活動は地域にとつての起爆剤となり、地域全体が食と農への関心を抱いてもらうように、私たち、青壮年部盟友が力を結集し訴えていくことが必要です。また、アグリキッズスクールに参加した児童から一人でも農業のすばらしさを理解し、就職してくれらたら、食農教育活動の最高の結果となります。今後、高森町青壮年部では、地産地消の意味で学校給食へ盟友が作った農産物の無償提供やJAのキッズスクールではできなかった、作物の種類から収穫までの作業を体験してもらおうように月に1回農業研修と出前授業などを行政とJAなどと一緒に活動していきます。

私たち青壮年部は誓います。
「未来に輝く子供たちのために…、食の大切さ、農業の大切さを伝えます」

ジャージー牛導入50周年を祝う

J A阿蘇
小国郷農センター
 小藪穂・大塚寛両氏に感謝状



J A阿蘇小国郷酪農振興会は11月21日、「ジャージー牛導入50周年記念式典」をJ A阿蘇小国郷情報企画センターで開き、関係者ら約100人が出席しました。

丸山信義組合長の祝辞に続き、小国郷酪農振興会の高村喜久男会長が「この50年を機に初心に戻り、土作りを基本とした栄養豊富な粗飼料栽培に取り組み、栄養分が高く美味しい牛乳を消費者にさらに愛飲して頂けるよう頑張ろう」とあいさつ。酪農振興功労者表彰と

して、小藪穂さんと大塚寛さんに感謝状が贈られました。

また、ジャージー登録協会顧問の布川謙先生が「ジャージーハンサイ、小国郷ハンサイ」と題して記念講演を行いました。

（写真は記念式典で講演を行う布川謙先生）

交配技術の確立を

ヒゴムラサキ振興方策検討会

J A阿蘇南部なす部会

J A阿蘇南部なす部会は11月9日、高森中央支所でヒゴムラサキの振興方策検討会を開き、部員・県・阿蘇農業普及指導課・J Aなど関係者が参加しました。

ヒゴムラサキの出荷が終盤を迎え今年の生育状況、病害虫の状況、来年度の作付けなどを検討しました。

今年の生育状況は、夏期の高温障害による色ボケ果が見られるなど高温に対する対策に焦点が当てられ、また、交配作業に負担がかかることからマルハナバチを利用した交配技術についても検討が行われました。

三森伸治部会長は「ヒゴムラサキは作業が多いために、面積拡大は難しい状況だったが、マルハナバチを利用した交配技術が確立でき

れば作業の省力化ができ、面積拡大が望める」と語っていました。

現在の同部会の部員数は21人で面積3.3haを栽培し、出荷量が330t、来年度の目標面積は5ha、出荷量500tを計画しています。



生育や病害虫の状況をチェックする参加者

イチゴ販売6億円へ 品質・収量アップ第二に

J A阿蘇中部イチゴ部会

J A阿蘇中部イチゴ部会は11月21日、阿蘇市で07年度産イチゴ査定会を開き、生産者や行政・J A関係・市場など約100人が参加しました。

甲斐二六部会長は「定植も順調に推移し、現状1番果の出荷ピークを迎えるが、原油価格高騰など厳しい環境下にある。しかし、地球温暖化の影響で阿蘇でのイチゴ栽培にはプラスである」とあいさつしました。

今年度の重点事項として、品種の集約を行い、規格の統一を図ることで有利販売を行う。さらに、銘柄産地として認知されることを目指し、品質・収量アップを第一の目標として、高品質生産管理の徹底などを行うことを確認しました。また、生育状況報告や出荷規格説明なども行われました。

今年度は、さがほのかを中心に作付面積15ha、生産者63人での07万パック（600t）、6億円の販売金額を見込んでいます。



写真はあいさつをする甲斐二六部会長

J A 大山町との広域販売が順調

「直販が楽しく、意欲がわく」
J A 阿蘇小国郷営農センター



J A 阿蘇小国郷営農センターは隣接する大分県J A 大山町と平成19年2月より農産物の取引を始め、出荷者から「商品の販路が広がり、直販が楽しく意欲がわく」と好評を得ています。

この取引は両J A が取引や情報交換を強化し、地域営農振興を図ることで、農家所得の向上につながることを目的としています。

季節ごとの野菜約40種類と寿司やまんじゅうなど、農家手作り

の加工品約10種類をJ A 大山町の直販2店舗とインショップ（外部店舗）の5店舗に毎日出荷しており、返品はほとんどない状況です。

当初、1週間の販売高は34万円でしたが、8月には99万円と最高を記録。8月末実績は1230万円で、出荷人数も12人から30人と増加しています。単価は生産者の自由設定で野菜は105円から210円、加工品は350円前後とお手ごろな価格。それでも1週間で10万円売り上げた生産者もあり、時には消費者から直接注文があるそうです。

また取引開始後、種苗会社や普及所を交え野菜生産講習会や、優良農家の圃場見学など農家同士の情報交換も行い、商品生産やパッケージ（包装形態）についての生産者自ら意識が変わり、直販所に出荷される商品も変わってきました。出荷する生産者は「今まで近所に配っていた野菜などが新たな農家所得につながり、また高齢者が多いので健康管理の維持にもつながる」と意欲的です。

今後ともJ A 阿蘇小国郷営農センターは新鮮で低価格の取引で、07年度売上目標の2000万円を目指しています。

写真＝出荷の準備をする生産者の皆さん

「収穫感謝祭」盛り上がる！

J A 阿蘇小国郷

J A 阿蘇小国郷中央支所と小国郷営農センター合同の「収穫感謝祭」が11月10日、同郷営農センターの野菜集荷場で開かれました。今年で7回目となり、J A 職員の各種バザーに加え、青壮年部・女性部・生産部会などの地域農産物を使った大鍋料理や小国牛ステーキ、手作りパターの演奏会、もちつき大会などで大賑わいとなりました。

生産部会対抗の綱引き大会や、力自慢の依担ぎ大会では力自慢の20人の選手が舞台上立ち、大勢の声援を受け実力を競い合いました。



写真＝大勢の人出で賑わった収穫感謝祭

J A 阿蘇も出展

「07熊本農業フェア」&
「米まつり」

11月10・11日に県農業公園で行われた「2007熊本農業フェア」&「米まつり」にJ A 阿蘇も出展。ブース前は大賑わいとなりました。



大賑わいのJA阿蘇ブース

J A 阿蘇から45人の選手が参加！

年金友の会
親善グラウンド・ゴルフ

佐藤節夫さん(南小国)が入賞



開会式の様子



第9回J Aバンク熊本「年金友の会親善グラウンド・ゴルフ大会」が11月19日、パークドーム熊本で開かれ県内J Aから選抜された約500人の選手が出場しました。J A阿蘇からは45人が参加し、A・Bブロックに分かれて日ごろ鍛えた実力を競い合いました。接戦の結果、J A阿蘇関係では南小国の佐藤節夫さんがAブロックで10位に入賞しました。



J A阿蘇の選手の皆様



接戦が続いたプレー

ジャージー牛乳
飲むヨーグルトなどを
出展し大好評

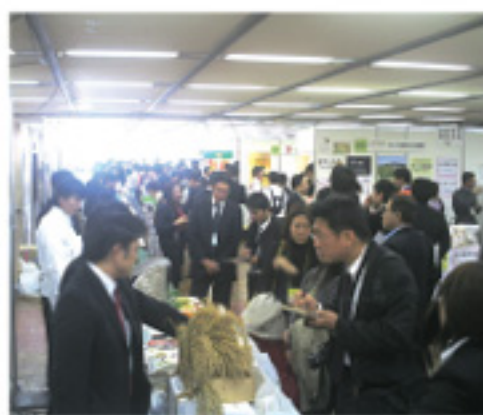
フードサービスバイヤーズ商談会

J A阿蘇は11月21日、東京都立産業貿易センターで開かれた「J Fフードサービスバイヤーズ商談会2007」に出展しました。

これは、新たな市場拡大や販路拡大を目的として昨年に引き続き、県北の3J A(鹿本・菊池・阿蘇)と熊本地方卸売市場との合同で参加したものです。

J A阿蘇は小国郷からジャージー牛乳・カフェオーレ・飲むヨーグルトを出展し、各ブースでは様々な食品の試食が行われ、多くのバイヤーで賑わいを見せました。

牛乳の試飲をしたバイヤーは「コ



クがあつて甘くておいしい」と驚きの表情をみせ、特に飲むヨーグルトが大好評で「地方発送はできるか?」「関東で販売しているのか?」など多くの問い合わせがあつていました。

(写真は多くのバイヤーで賑わう会場)

種子水稲うるちもみ検査
全量が合格!

南阿蘇村で11月26日、種子部会員・県普及指導課・経済連・J A関係者ら約20人が参加し07年産種子水稲うるちもみ検査を行いました。

南阿蘇村では02年より水稲種子(コシヒカリ)の栽培を始め、今年で5年目を迎え、近年は台風などの気象障害の影響で収量・品質ともに低下しており、検査結果が懸念されてきました。検査数量1713袋(1袋20キロ)を検査した結果、すべて合格米という結果に生産者は安堵の表情を見せていました。



検査をするJAの検査員

2007「まるごとあそびスクール」報告

ダイコン抜きとバター作りに挑戦!

10月20日の「まるごとあそびスクール」では19人が参加して、ダイコンの収穫とバター作り体験を行いました。ダイコンの収穫は小国郷大根部会長の高村夏規さんの圃場で行われました。説明を受けたあそびっ子たちは、意外と簡単に抜ける大きなダイコンに歓声を上げながら収穫を行いました。

次に酪農家の高村裕二さんの畜舎で酪農見学を行いました。高村さんよりジャージー牛の説明を受けて、牛とも触れ合いました。その後、小国郷中央支所に戻ってバター作り体験を行いました。担当のJA職員の方より原料が入っているペットボトルをもらい、説明を受けたあそびっ子たちは悪戦苦闘しながらペットボトルを振っていました。そして、次々に「できたー」と歓声が上がリ、出来上がったバターをパンにつけて試食しました。



大きなダイコンを持ち上げて「ハイ、チーズ!」



牛さんたちとご対面



お昼はおいしいバーベキュー





女性フォーラムで感想文を発表した
左より佐藤永梨さん、田上亮平君、本田美三弥君

お米一つぶ

高森東小学校4年 本田 美三弥

ぼくは、ちやぐりんを読んでみて、一番おもしろかったのは、田んぼの生き物です。ぼくが知らない生き物がいっぱいあったからです。一番ざもんにおもったのは、田んぼの生き物で生きた化石がいるところなんです。なぜふしぎにおもったかというと、海にいるのはしついで田んぼにいてるのとはしらないからほんとうにいるのかぎ問に思いました。

一番勉強になったのは、お米がどれだけ大切なのかというところ

です。ぼくは、そこを読んで、うちのじいちゃんがお米をつくって育てるのに苦労があるの思い出しました。

昔は、田んぼのじゅんぴも田植えも草取りも消どくもいねかりもいねじのもきかいがなかったで全部人の手でしていました。でも今はきかいなどがふえて田植えやじゅんぴが楽になりました。

うちのじいちゃんがお米を作ります。ぼくの家は昔と今の半分半分です。四月から五月じいちゃん田のじゅんぴを始めます。田んぼの回りを草かりきできれいにします。そして、トラクタで田んぼをたがやします。雨がたくさんふると、下の川に閘を作って、ポンプでくみ上げて田に水をためます。雨がふる中じいちゃんとお父さんがあせぬりをします。くわでこしを曲げてどろをぬっていきます。その日の夜、ぼくはかたとこしのマツサージをします。五月の終わりにきかいで田植えをします。きかいで植えられない所は、じいちゃんとはあちやんが手でします。それから取り入れまで毎日見に行きます。田んぼに水を入れたら病気や虫がいつばいいないかを見に行きます。田の草取りとか病気が入ると消毒します。回りの草がのびるときります。いねが突つてくるとイノシシがくるから電線をはります。そうやって育てます。秋にいねかりをみんなです。じい

ちゃんきかいでいねをかります。たばになったいねをお父さんの所にもっていきます。そこでぼくは、お米を育てるのは、たいへんだなと思いました。十月になつてみんないねじのをします。ぼくは、バサバサになつたいねをじいちゃん所に運びます。運ぶ時に目と体がちかちかします。だけど何回も運びます。じいちゃんがきかいに通すとお米がどんどんたまります。お米がたくさんとれるとみんなよろこびます。お米の一つぶ一つぶには長い時間と苦ろうと愛情がつまってるんだなと思いました。

ちやぐりんを読んで、ぼんを一つぶも残さず食べようと思いました。一つぶ一つぶ苦ろうがあつてできているから大事だとわかりました。ひいばあちゃんがいねじのの後にちやんがいてるいねを一つ一つひろうわけもわかりました。ぼくも、もっと田んぼやお米のことを考えたいです。

「田んぼの自由研究」を読んで

白水小学校4年 田上 亮平

今年の梅雨は、雨がたくさんふりました。近くの川も山からたくさん水が流れてきました。ぼくの家の田んぼも山のほうにあるのでくずれていないか

心配でしたが大丈夫でした。何年も何年もかけて土に雨がしみこんでかたまつたんだなあ、あんなにたくさん雨があつても山の水や田んぼが雨をすつて、人が住んでるところに流れてこないようにしているんだなあと思いました。田んぼやあぜにはたくさん生き物がいます。ぼくは、カワニナ、サワガニ、カエル、アメンボを見つけました。6月には小さいカエルがたくさんいてかわいかったです。ぼくの家の田んぼの水は白川水源の水が流れています。人が飲んでおいしい水をいねがすつてるのでおいしいお米ができるんだなあと思いました。

種もみはザラザラしていて、見ただけがいい種もみか悪い種もみかわかりません。けれど、塩水につけるといい種もみか悪い種もみかわかることを初めて知りました。

田植えがおわつても水の管理や草を切つたり、追肥をしたり、お米を作る人は大人だなあと思いました。ぼくも、お父さんやお母さんといっしょに田んぼに水が入っているか見に行きます。水が入っていない時は、水が入るようにぼくが水ろのふたをあけます。時どき足や手をつけると、初めは冷たくて気持ちがいいけれど、あとから冷たすぎてがまんできません。

「ちやぐりん」においしそうなおむすびの作り方がのつていたので、家族

で見ました。お父さんとお姉ちゃんたちは「ニコニコうめえおむすび」、お母さんは「チーズ・おかかおむすび」がいいと言っていました。ぼくは学校の、梅の木の梅でみんなまで梅干しを作ってみました。その梅干しを使って「ニコニコうめえおむすび」を作ってみました。秋になっておいしいお米が取れるのがとても楽しみです。

ちやぐりんを読んで

中通小学校4年 佐藤 永梨

わたしは、ちやぐりんを読んで、すごいなあと考えた所や、初めて知ったことがいっぱいありました。

すごいなあと考えたことは、一番はじめにあった、育ててみようやさしくんです。ジャガイモの話が書いてありました。ジャガイモから芽がでて、国のけんさに、合格したものしか、たねイモにならないということを、「ちやんとした、けんさをしなければたねイモにならないんだなあ。」と思いました。

初めて知ったことは、昔の人たちは、田植えの時、助け合いながら、田植えをするということ。おとなりの人から、手つだつてもらったら、その人の家の田植えを手つだつてやってい

たので、「やさしい人たちだなあ。みんな協力しあつて、米を植えているんだなあ。」と思いました。後、お米は、八十八回手をかけるから、米という漢字になったことも知りました。

一番心に残っている話は、高木敏子さんの「戦争はいや」と言える人という話です。敏子さんは、千回以上もうたえていたと書いてありました。太平洋戦争で、お父さん、お母さん、二人の妹をなくしていました。二人のお兄さんは、兵隊に行つたので、生きていられるのか、なくなつたかわからなかつた。戦争の時、家にいた、二人の妹とお母さんは、家でなくなり、お父さんは、戦争が終わる十日前に敏子さんの目の前で、アメリカ軍のせんとろきにうたれなくなつたと書いてありました。二人のお兄さんは、戦争がおわつて帰つてきたそうです。

敏子さんは、いろいろな人に戦争がどんなにこわいかを話しているそうです。

ちやぐりんには、おもしろい話もあるし、心に残る話など、いっぱいあるので、わたしはちやぐりんを読むのが好きです。



将来を担う子どもたちのために 第1回JA阿蘇旗争奪学童わんぱく野球大会 「阿蘇ビクトリー」が優勝!

JA阿蘇は9月30日と10月6日、第1回JA阿蘇旗争奪わんぱく野球大会を阿蘇市で開催、阿蘇郡市の小学生で構成する9チームが参加し熱戦を繰り広げました。この大会は組合員・地域住民が住みなれた地域で健康で安心して

暮らせる豊かな地域社会・環境づくりに貢献することを目的に、初めて開催されました。開会式では原山輝義常務が「将来、甲子園を目指してがんばってください」とあいさつ。選手を代表して宮原少年野球クラブの鎗水啓暢君(宮原小6年)が元気に選手宣誓を行いました。試合は決勝で阿蘇ビクトリー(6年)と阿蘇西イーグルスが対戦し、投手戦のすえ阿蘇ビクトリーが1対0で初優勝しました。



9チームが出場した開会式(写真右上) 鎗水啓暢君(宮原小6年)の選手宣誓(写真左上)
優勝した阿蘇ビクトリー(6年)チーム(写真下)

総合展示会販売に向け 電気担当者の研修会

J A阿蘇は外部講師を迎え、電気担当者研修会を10月24日、阿蘇市で開きました。10月27日より順次、3会場で開催される「2007 J A阿蘇総合展示会」に向け、担当者の知識向上のために開催されたものです。冷蔵庫や洗濯機などの大型家電製品の運搬や開梱時の注意点、お客様宅の床・壁等傷をつけないようにするためのマニュアルなど、詳細にわたり学びました。液晶テレビやDVDレコーダーの研修では、設置調整時の注意点やチャンネル設定などを実際に確認しました。担当職員は講師にチューニングの仕方や取り付け方法など質問しながら、展示会に向け万全の備えをしました。



熱心に学ぶ担当職員

2007総合展示会



10月27・28日、阿蘇市体育館で総合展示会が開かれました。今回は中部・北部・南部と順次3会場で開催するその1回目で、女性部による加工食品の販売も行われました。

功績をたたえ退職者を表彰

10月29日、07年度上半期に定年退職した2人の表彰式を本所で開きました。丸山信義組合長より2人に感謝状と記念品が贈られ、



永くJ A職員として貢献した功績をたたえ、その労をねぎらいました。

J A阿蘇きらり

「いろんな人とふれあえ、
視野が広がった…」



J A阿蘇波野支所
盛 はるか

昭和62年4月生まれ 住所=阿蘇市

平成18年4月に入組して、現在、波野支所で貯金の窓口を担当しています。趣味は音楽で、特に宇多田ヒカルが大好きだそうです。毎日、愛車で宇多田ヒカルのCDを聴きながら通勤しています。

J A阿蘇で仕事をしています。いろいろな組合員の方や職員の方と会えて、また、お話をすることができて視野が広がることだと思います。たまに仕事で失敗をすることがあっても、J Aの仕事は楽しいそうです。「お客様(組合員の方)には笑顔で接するようにしています。最初の頃はやや緊張して笑顔になれなかったこ

ともありました」と盛さん。

最近、感動したことは結婚した友達に「かわいい赤ちゃんが誕生したこと」だそうです。何か自分のことのようにうれしかったそうです。「だから、私も早く素敵な家庭を持ちたいです。理想の男性は…、私をがっちり支えてくれる人です」と、少しはにかみながらニコニコ。

中学時代は部活で卓球をしていて「卓球少女」だったという盛さん。現在は愛犬と散歩することが日課だそうです。好きな食べ物は明太子、もちろん地元・波野産のソバや新鮮なキャベツも大好きです。

年賀状作りにも挑戦!

J A阿蘇女性部高森支部は10月25日、高森中央支所で絵手紙教室を開き部員10人が参加しました。絵手紙作りの心得は「下手でいい、下手がいい」で、季節の野菜や果物などを題材にそれぞれ個性的な絵手紙を作りました。この絵手紙教室は毎月行われており、同部員の住吉りえ子さんは「今後は、この絵手紙を使って年賀状作りに挑戦したい」と意欲を語っていました。



絵手紙を作る女性部員の皆さん

「下手でいい、下手がいい」
絵手紙教室 女性部高森支部

10月18日、熊本県園画工作美術教育研究会で厳正な審査が行われ、21作品が入選作品として選出されました。特選9点については11月10日、熊本市内のホテルで表彰式が行われ、全国大会への推薦作品も決まりました。9点の特選作品のうち、6点はJ A阿蘇管内から出展されたものであり、阿蘇は非常に優秀な成績を収めました。尚、全国大会の結果発表は1月に予定されています。

県下のJ Aグループでは、クミアイプロパン消費世帯の二層の保安確保を図るため、児童による絵のコンクールを毎年実施しています。23回目となる今回、県内各小学校より夏休みを利用して700点近くの作品が出展されました。J A阿蘇管内からは7事業所内、12の小中学校から250点の作品が出展されました。

クミアイプロパン絵のコンクール 特選9点のうち、6点は阿蘇管内



表彰式の様子



両併小6年 丸山 薫



白水小5年 北 ひかり



白水小2年 北 みずき



馬見原小2年 片倉 かえで



蘇峰小2年 後藤 ふみな

第23回 クミアイプロパン 絵のコンクール

熊本県大会
特選



両併小3年 岩根 だいき

理事会・監事会報告

■平成19年度第8回理事会

日時 平成19年10月30日 午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1.開会

2.組合長挨拶

3.協議事項

委員会報告(債権管理委員会・経済専門委員会)

平成19年度上半期実績報告

1) 貸出金について

2) 葬祭定期積金等の新設について

3) 購買未収金借換資金について

4) 平成19年度強い農業づくり交付金

(経営構造対策事業)について

報告事項 JA営農ローン・大型農業者ローン・JA農機ローンの融資要綱改正について

報告事項 共済保証貸付に係る利益相反取引について

報告事項 年金予約優遇定期貯金について

報告事項 JA阿蘇一の畜産場整備料金について

報告事項 不必要農薬・農薬空容器回収について

報告事項 平成19年度産米検査結果について

報告事項 西原甘藷設備工事経過報告について

報告事項 平成19年度上半期内部監査実施状況について

報告事項 平成19年度上半期組合員状況について

3) 金融商品取引法施行に伴う規程類の制定及びみなし登録手続きについて

4) 保額預り規程兼振替決済口座管理規程の変更について

5) 貸出金について

6) 畜産近代化リース事業について

7) 久木野給油所建設費支払方法について

8) 平成16・17年委・大豆品質向上対策事業について

9) 職員年末賞与支給について

報告事項 JAバンク基本方針に基づく「経営状況に関する事項の報告」について

報告事項 平成19年度産米集荷実績について

報告事項 ダンボール資材現状について

報告事項 JA阿蘇一の畜産場リース契約について

報告事項 12月定例理事会について

●平成19年度第7回監事会

日時 平成19年10月19日 場所 本所会議室

1.開会

2.挨拶

3.議題

1) 平成19年度小麦等欄卸監事監査回答書について

2) 平成19年度上半期事務監事監査手続調書について

3) 平成19年度全国監査機構期中監査実施について

4) 平成19年度上期内部監査実施状況報告について

5) その他

●平成19年度第8回監事会

日時 平成19年12月4日 場所 本所会議室

1.開会

2.挨拶

3.議題

1) 平成19年度上半期決算監事監査報告書(案)について

2) 平成19年度導入家畜等欄卸監事監査実施(案)について

3) その他

■平成19年度第9回理事会

日時 平成19年11月28日 午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1.開会

2.組合長挨拶

3.協議事項

委員会報告(経済専門委員会)

平成19年10月末実績報告

1) JAバンク熊本ローンセンターの設置について

2) 教育ローン金利設定について

JA阿蘇職員異動のお知らせ

氏名	新 任 令	発令年月日	旧 任 令
井 龍 也	産山支所長	平成19年10月12日	中部営農センター團長課農務係(産山支所兼任)
今 村 和 夫	阿蘇町中央支所金融課(課長待遇)貸債係 職員未収金回収係	平成19年11月5日	中部営農センター農産課長兼地域水田農業推進協議会出向総括(阿蘇市・産山)
田 上 稔	中部営農センター農産課長兼地域水田農業推進協議会出向総括(阿蘇市・産山)	平成19年11月5日	中部営農センター農産課長係(課長待遇)兼地域水田農業推進協議会出向
山 部 隆 義	中部営農センタ 農産課長兼地域水田農業推進協議会出向	平成19年11月5日	中部営農センタ 農産課長カントリー 所長
成 瀬 裕 介	阿蘇町中央支所金融課農務係	平成19年11月5日	阿蘇町中央支所金融課金融(貯金)兼金融渉外係
野 田 義 照	白水中央支所融資課長	平成19年12月4日	西原中央支所金融課長
藤 本 親 幸	白水中央支所融資課(課長待遇)	平成19年12月4日	久木野中央支所(課長待遇)
惣 川 佳 奈 子	白水中央支所融資課農務係	平成19年12月4日	白水中央支所金融課金融(貯金)兼金融渉外係
吉 山 美 紀 子	白水中央支所融資課農務係	平成19年12月4日	長賜中央支所金融課金融(貯金)兼金融渉外係
藤 原 正 代	阿蘇町中央支所共済課LA係	平成19年12月4日	阿蘇町中央支所購買課購買係(グリーンショップやまびこ)



Dr. やまさん

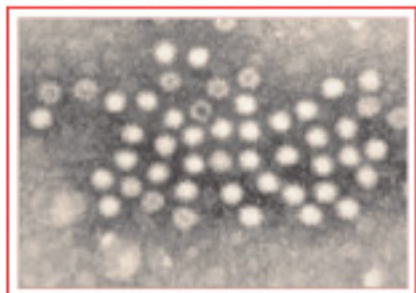
お知恵拝借

食中毒に気をつけよう

(ノロウイルス感染症)



晩秋から春先にかけて



ノロウイルス(左写真)による感染性
胃腸炎や食中毒は、一年を通して発生していま
すが、特に**冬季に流行**します。

ノロウイルスは手指や食品などを介して、
経口感染し、ヒトの腸管で増殖するため、おう
吐、下痢、腹痛などを起こします。

健康な方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄りなどは重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡することもあります。

特に保育園、小・中学校、病院、老人ホームなどの施設で、ヒトからヒトへの感染が多く発生しています。

ノロウイルスについては予防用ワクチンがなく、また、治療は輸液などの対症療法に限られます。

従って、皆様の周りの方々と一緒に、次の予防方法を徹底しましょう。



予防方法

- ① 調理前、トイレの後は**しっかり手を洗いましょう**(特にノロウイルス食中毒が多発する冬場は、水が冷たく、手洗いがおろそかになりがちです)
- ② ふん便や吐物には大量のウイルスが含まれているため、処理の際には手袋やマスクを着用しましょう。
- ③ ノロウイルスにはアルコール消毒が無効なので、塩素系消毒剤又は**煮沸にて消毒**しましょう(塩素系消毒剤は注意事項をよく読んで使用しましょう)
- ④ 二枚貝の生食を避け、特に**加熱調理用のカキは新鮮であっても絶対に生で食べない**で下さい。二枚貝の調理は中心部まで十分(85℃以上の温度で1分間以上)に加熱しましょう。

なお、下痢や嘔吐がひどい場合、脱水症状を起こす場合がありますので、水分補給につとめるとともに、早めに医療機関を受診してください。(特に乳幼児や高齢者)

感染予防の基本は「手洗い」です!



熊本県厚生連診療所

所長 中山 茂樹



TEL096(328)1250 FAX096(328)1258



JA阿蘇 年金友の会 JA発着

トンネ

東葉温泉と釜山・慶州

3日間

■出発日/平成20年3月10日(月)

申込み締切日 1月31日(木)

■大人お一人様旅行代金
(2名様以上1室利用) **49,800円**

博多港発着(大人500円・6歳以上12歳未満200円・5歳未満無料)、釜山港発着(1,500円・6歳未満200円・5歳未満無料)、釜山港発着(1,000円・6歳未満130円・5歳未満無料)、船体特別付加運賃(2,500円)(往復) (諸事情により変更になる場合があります)、国際手続手数料(4,200円)が別途必要となります。

■募集人員/90名様 ■お申込金/10,000円

■最少催行人員/30名様 ■利用船舶会社/JRビートル

■利用予定ホテル/東葉温泉:ホテル農心 又は同等クラス

■食事/朝食2回・昼食3回・夕食2回

■添乗員/同行して旅程管理業務を行います。

日次	都市名	交通機関	時刻	スケジュール	食事
1	J 福岡	A 岡山	午前	JAより貸切バスにて博多港へ、	夕食
	釜山	午後	博多港より船路にて釜山へ、 着後、釜山市内観光 (龍淵山公園、国際市場、免税店など)		
2	釜山	釜山	終日	釜山より慶州へ、 慶州日帰り観光 (仏国寺、古宮公園、新羅焼き窯元、民芸品店 ショッピングなど)	朝食
	釜山	釜山	夕食は、ホテルにて 韓定食 をどうぞ。 夕食後、虚心亭にて温泉をお楽しみください。		
3	釜山	釜山	午前	釜山市内観光 (民衆寺、チャガルチ市場、ショッピングなど)	朝食
	J 福岡	A 岡山	午後	昼食後、釜山港へ(途中、食料品店へ) 釜山より船路にて博多港へ、 到着後、貸切バスにてJAへ、 着後、解散。 大家お疲れ様でした。	



3日目/韓定食
※内容は全てイメージです

お問い合わせは最寄り各支所へどうぞ。

募集中

温泉連泊でのんびり湯の旅

東葉温泉は、数千年の歴史を誇る韓国最大の温泉地として「三陟史記」等、韓国歴史の文庫でも記録されているその自然が認められているアールカシオの温泉地です。特に、虚心亭で使われている温泉水は硫黄化と自然療法にすぐれた効果があるマグネシウムの含有量が韓国の温泉地を誇り、温熱による神経の緊張緩和および鎮静作用によってストレスの解消にもお助けに効果的という分析もなされています。



■温泉地のご案内
 ◎温泉/アールの地温温泉
 ◎朝飯/お昼飯、夕食、お化け、お風呂、心療内科など
 ◎営業時間/6:30~22:00 (入浴は21:00まで)
 ※本温泉は2000人以上の好評を得ています。ぜひお楽しみください。
 長寿湯、種湯、よもぎ湯、黄土湯など温泉に合わせた約40種類の温泉の湯、また季節的に変わる天然素材と湯の掛け合わせ、イベントも楽しむことができます。



釜山 龍頭山公園
 645年前建の韓国三大名刹のひとつ、仏教を尊ぶ寺として知られ、各地から山の人が集りに訪れています。王宮の御で焼かれ、1601年と1641年に再建修復されました。



東葉 梵魚寺 (ボモサ)
 675年に創建された禪宗の根本道場で大規模な寺でしたが、壬辰の乱で焼失しました。1614年に再建された大雄殿は、朝鮮王朝建築の粋と書われるほどの見事なものです。

慶州 世界遺産 仏国寺
 535年に創建され、新羅仏教の中心として隆盛を極めた寺で、壬辰の乱で焼かれ今の建物はその後再修復されたものです。石造部分だけは当時のままで石造技術の精巧さは、1,500年近く経ってもなお美しさが際立ちます。

